

# JOBURG EXPRESS

2月 発行 No. 9

ヨハネスブルグ日本人学校 中島緑郎

思い切って現地の人の中に飛び込みました。その3

学習発表会に向けた現地理解教育の、私のもう一つのチャレンジは、一緒に学校で働く現地スタッフ(ガードマン、バスのドライバー、校地管理のガーデナー、校内清掃のクリーナー)たちに、当日の発表に参加してもらおうというものでした。

多くの在外教育施設では現地の人を雇っていますが、教師ではない彼らは子どもたちから見るとただの雇い人でしかありません。特にこの国では“白人は雇い主、黒人は下働き”というアパルトヘイト時代の意識が根強く残っており、白人側で生活する日本人にも少なからずそんな感覚が移ってしまっているように思います。私は子どもたちに、もともとアフリカに住み独自の文化を育ててきた黒人の方たちを、もっと尊敬してもらいたいと感じていました。

そこで、学習発表会の中に現地スタッフが活躍する場面、子どもと一緒に何かをする場面を取り入れたいと考えました。具体的には、音楽の授業を担当しているのでまずはエンディングの全校合唱に、彼らを引き入れることにしました。たまたま去年はマイケル・ジャクソンが亡くなったということもあり、曲目は『We are the world』に決定。子どもたちは総合学習で英会話を学んでおり、現地スタッフも英語の歌詞なら歌いやすいと思ったのです。



10月、初めて子どもたちとスタッフ、先生と一緒に歌声を合わせました。“違う国のみんなが一つになっている！”と、感激のあまり泣き出す中学生がいたほど。全員が心から感動した瞬間です。



9月から毎週金曜日の勤務時間後、スタッフに集まってもらって練習を重ねました。みんな歌うのが大好きで、私自身もこの日が楽しみになりました。

さらに私が担任する6年生はワールドカップを題材に、開催まで取り組みや施設設備、子どもたちの遊び、音楽の各観点で日本と南アを比較する発表をすることになっていましたので、その中でも彼らに登場してもらうよう計画しました。子どもたちが音楽で学習した歌やリコーダー演奏を日本の音楽として披露する際、南ア側の代表としてアフリカの歌を何曲か歌ってもらえるようお願いしたのです。





この日のために昼休み返上で毎日学校の車庫で練習してくれたスタッフのみなさん。“練習するから見に来てくれ”と毎日のように声をかけてくれました。本当に気のいい人たちなのです。

そうして迎えた10月31日、いよいよ学習発表会本番！ まずは南アフリカの音楽を紹介する部分では現地スタッフ全員に登場してもらって、会場は大盛り上がり。そして最後の合唱へ…。



最後には遂にみんなで We are the world を歌うことができました。楽譜を取り寄せてアレンジして、スタッフと練習して打ち合わせて…と大忙しの2カ月。でも“子どもたちとスタッフの距離が近づいた”と親もスタッフもすごく喜んでくれたので、やりがいがありました。英語もずいぶん上達。こういう実践ができるのは在外教育施設のいいところ。やっぱり人と人の交流が一番です。

To Be Continued !